

## 地域社会と共存する富士フィルム九州の取り組み

## 南阿蘇の「水源かん養林整備」と「えほんのくに支援」

平成 19 年 5 月 15 日

富士フィルム九州株式会社(社長：山口 光男、以下：富士フィルム九州)は、地域社会と共存する取り組みとして、「南阿蘇村の水源かん養林の植栽」を 5 月 9 日に完了いたしました。また、5 月 19 日より開催される「南阿蘇えほんのくに第 2 回誕生祭」を支援いたします。

富士フィルム九州株式会社は、富士フィルム株式会社(社長：古森 重隆)のフラットパネルディスプレイ材料事業の主要製品「フジタック」※1の生産拠点として、昨年 10 月 30 日に第 1 工場が本格稼働を開始しました。「フジタック」は優れた光学特性を持ち、液晶用偏光板の保護フィルムとして、液晶ディスプレイの製造に不可欠な材料です。液晶ディスプレイの世界的な需要の急拡大に対応し、当社は更なる能力増強と安定供給の強いニーズにお応えするため、本年 8 月には第 2 工場、来年 4 月には第 3 工場を順次稼働させていく計画です。

当社は積極的な事業活動を進めることにより地域経済の発展に貢献していくと同時に、企業として活動を行う上で重要な「環境の保全」や地域における「文化の振興」に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

「環境の保全」につきましては今回、熊本県、南阿蘇村の協力を得て、重要な地下水かん養地帯である白川上流域の南阿蘇村での水源かん養林整備(植林)に着手し、このほど植栽を無事完了いたしました。本植栽地は、光と色をコントロールする独自技術を持つ富士フィルムが、製品の供給とともに地域社会に貢献していきたいという意味を込めて「富士フィルム光の森林(もり)」と命名し、今後も大切に育ててまいります。

また、地域における「文化の振興」の取り組みの一つとして昨年 12 月に「南阿蘇えほんのくに」※2のパートナーとして活動を支援しております。来たる 5 月 19 日より開催される「南阿蘇えほんのくに第 2 回誕生祭」におきまして、当社は運営全般に協力するとともに、「Photo えほん館」開設あたり、富士フィルムグループの写真文化を守り育てる取り組みと連携させ、「Photo えほん」(写真でつくる絵本)の作成活動を支援いたします。さらに、5 月 27 日の誕生祭フィナーレでは、富士フィルムグループが活動を支援する登山家野口健氏に、ヒマラヤ清掃登山している現地との中継放送で登場いただく予定です。

富士フィルム九州はこれからも、積極的な地域との交流、環境保全に努め、地域社会と共存する企業を目指していきます。

## 【富士フィルム光の森林(もり)】

- ①植栽地 : 阿蘇郡南阿蘇村大字久石字赤迫 4409-2 (村有地) 造林面積 5.24ha
- ②植栽木 : 広葉樹(コナラ、ヤマモミジ、ヤマザクラ) 約 13,000 本
- ③整備期間 : 平成 19 年 2 月 6 日～平成 34 年 2 月 5 日(15 年間)

## 【Photo えほん館】

- ①会場 : 如水館分館/元国際童謡館・南阿蘇村久木野
- ②イベント
  - ・ Photo えほん作品展示 5/21～27 10:00～16:00
  - ・ Photo えほんづくりワークショップ 5/26～27 10:00～16:00

※1 フジタック : TAC(セルローストリアセート)を素材とし、液晶用偏光板の保護膜として使用されるフィルム。

※2 南阿蘇えほんのくに : 南阿蘇の有志の方々が中心となって「えほん」をキーワードに、地域文化の振興や環境の保全、交流の推進などを進めていく取り組みです。

ホームページアドレス : <http://www.aso.ne.jp/~ehon/>

本件に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

報道関係・お客様 富士フィルム九州株式会社 総務部

TEL 096-340-9000

その他以下のホームページアドレスで、富士フィルムグループの環境・社会活動を紹介しています。

<http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment>